HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

# ワークショップ開催の背景と目的



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 日本DOHaD学会事務局<br>公開日: 2019-08-21<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 佐田, 文宏<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | http://hdl.handle.net/10271/00003579 |

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2019 年 第 8 巻 第 2 号　3 頁

# ワークショップ開催の背景と目的

佐田 文宏
日本 DOHaD 学会出生ｺﾎｰﾄ連携ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ
DOHaD 疫学セミナー

## 背景

科学技術振興機構（JST）の研究開発戦略センター（CRDS）は様々な分野の政策提言を行っている。その中のライフサイエンス・臨床医学ユニットでは、先制医療及び DOHaD 関連の政策提言を行ってきた（表１）。

**表１　科学技術振興機構の研究開発戦略センターの DOHaD 関連政策提言の歩み**

| 刊行年月 | ライフサイエンス・臨床医学ユニットの提言・報告書 |
|---|---|
| 2011 年 3 月 | 戦略イニシアティブ「**超高齢社会における先制医療の推進**」（作成メンバー：井村裕夫 他） |
| 2014 年 3 月 | 科学技術未来戦略ワークショップ報告書「**胎児期～乳幼児期（小児期含む）に着目した先制医療の精緻化**」 |
| 2014 年 6 月 | 戦略プロポーザル「**ヒトの一生涯を通した健康維持戦略　ー特に胎児期～小児期における先制医療の重要性ー**」（総括責任者：浅島　誠） |
| 2015 年 3 月 | 俯瞰ワークショップ報告書「**ライフサイエンス・臨床医学分野**」 |
| 2015 年 4 月 | 研究開発の俯瞰報告書「**ライフサイエンス・臨床医学分野（2015 年）**」（作成メンバー：浅島　誠，永井良三，中尾一和 他） |

2011 年には、井村首席フェロー（当時）らが中心になって、先制医療という新しいパラダイムが提唱された[1]。2014 年には、DOHaD の観点から、この分野のトップクラスの日本人研究者を集め、科学技術未来戦略ワークショップが開催され、ワークショップの内容は報告書として刊行された[2]。この報告書に基づき、今後推進すべき重要テーマを戦略プロポーザルという形の政策提言としてまとめられた[3]。先制医療を精緻化するという観点から、胎児期～小児期の研究の重要性を説き、中核研究機関や組織の設立、人材確保と次世代育成、既存の出生コホート・バイオバンクの統合化およびビッグデータの収集・管理・解析などを重要テーマとして提案された（表２）。

**表２　今後推進すべき最重要テーマ**（抜粋）

| テーマ | 内　容 |
|---|---|
| **共通基盤** | ● 全体を統括する**中核機関や組織の設定**<br>● **人材確保、次世代育成**<br>● 倫理・法律・社会問題（ESLI）の観点からの適切な取組 |
| **疫学研究基盤の整備、運営、活用** | ● **既存の出生コホート・バイオバンクの統合化**<br>● **様々な分野の研究者がアクセスしやすい環境の整備**<br>● 既存の疫学研究基盤では得られない**新規疫学基盤の開始** |
| **社会実装に向けた研究開発の推進、評価** | ● 多種多様な**ビッグデータの収集・管理と詳細な解析**<br>● 健康・経済・社会にもたらす**インパクトの定量的な評価** |

## ワークショップの目的

わが国の国民の健康状況は、他の先進諸国とは異なる独特の特徴がみられる。出生児における低出生体重児の割合の増加、平均出生時体重の減少、10 歳代後半から 20 歳代における若年女性のやせの割合の増加などは他の先進諸国では見られない。最近、低出生体重児の割合の増加と呼応して成人の平均身長の低下することが報告された[5]。サイエンス誌では、衝撃的なニュースとしてこの論文を紹介している[6]。これらを踏まえ、日本 DOHaD 学会は、『「我が国における低出生体重児の割合増加」に対する喫緊の対策の必要性』という学会声明を公表した。このように、既存のデータを丹念に解析することにより、潜在的な健康問題が明らかになった。今後、出生コホート研究のデータ統合・メタアナリシス、母子手帳や健診データから得られたデータのデータベースを詳細に解析することによって、ライフステージに応じた健康課題を洗い出し、早期に対策を立てることが克服の第一歩となる。

わが国において成人のコホート研究・疫学研究では、古くから連携が行われ、成果を挙げていると同時に、保健予防政策に資する科学的なエビデンスを提供してきた。最近では、産学連携によるイノベーション創生も行われるようになった。まず、このような成人の成功事例を参考に、わが国の出生コホート研究の現状を踏まえ、現実的かつ具体的な戦略を立てることが本ワークショップの目的である。これまで連携が乏しかったわが国の出生コホート研究と早期介入研究において、どのような形で連携していけるかを検討する。そのためには、既存の健康・医療データを最大限に活用する方策を検討し、先制医療のコンセプトに基づく方法・技術を具体化し、社会実装を着実に進めるための実行可能な戦略を議論することを期待する。

## 文献

1. 独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 臨床医学ユニット編. 戦略イニシアティブ：超高齢社会における先制医療の推進．東京：科学技術振興機構，2011：1-35
2. 独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター ライフサイエンス・臨床医学ユニット編．科学技術未来戦略ワークショップ報告書「胎児期～乳幼児期（小児期含む）に着目した先制医療の精緻化」．東京：科学技術振興機構，2014：1-125
3. 独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター ライフサイエンス・臨床医学ユニット編．戦略プロポーザル：課題解決型研究開発の提言（3）「ヒトの一生涯を通した健康維持戦略 －特に胎児期～小児期における先制医療の重要性－．東京：科学技術振興機構， 2015：1-61
4. 独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター ライフサイエンス・臨床医学ユニット編．研究開発の俯瞰報告書「ライフサイエンス・臨床医学分野（2015 年）」．東京：科学技術振興機構，2015：1-111
5. Morisaki N, Urayama KY, Yoshii K, Subramanian SV, Yokoya S. Ecological analysis of secular trends in low birth weight births and adult height in Japan. J Epidemiol Community Health. 2017 Oct;71(10):1014-1018
6. Normile D. Staying slim during pregnancy carries a price. Science 361:440, 2018